

種子島におけるスナップエンドウの霜害対策に散水氷結法が有効

背景

○スナップエンドウは、おいしさや簡便な調理法等により需要が多く、種子島においても面積が増加

○しかし、冬期温暖な種子島においても、突発的な低温による霜害で、出荷量が減少

目的

散水氷結法によるスナップエンドウに対する霜害対策技術の開発が必要

研究内容

○散水氷結法がスナップエンドウに効果を示す低温限界温度の解明

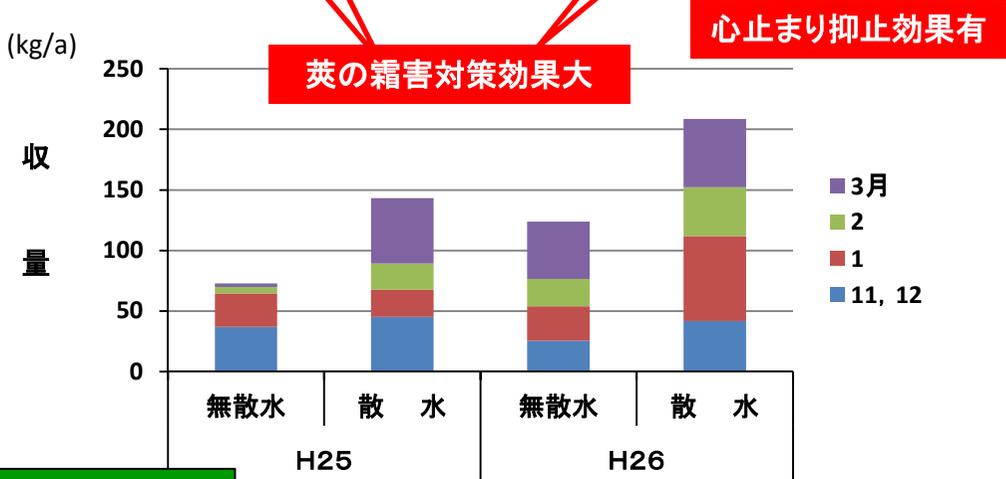
○種子島における導入可能地域の明確化

成果の内容・特徴

熊毛支場

莢の霜害回避効果は小さい

試験年度	調査日	最低気温 ℃	莢の霜害発生度		主枝の心止まり	
			無散水	散水	無散水	散水
H25	1月11日	-2.4	100.0	91.5	有	無
	1月23日	-2.8	100.0	60.0	有	無
	3月11日	-1.4	100.0	0.0	—	無
H26	12月15日	-0.7	25.7	0.0	無	無
	12月19日	-0.5	25.5	0.0	無	無
	1月18日	-1.6	87.1	1.3	無	無



今後の展開

種子島の準無霜地帯(最低気温が-1℃以下になることが少ない)に導入促進